



■作者名/美鳥悦子・作品名/ミズギワ・天地2320mm×左右1520mm

awa onna akindo juku Gallery

awa onna akindo juku Vol.10 Spring 2003

■編集・発行
AWAおんなあきんど塾・徳島市

■お問い合わせ先
徳島市商工労働課 徳島市幸町2丁目5 Tel.088-621-5225・5226 <http://www.nmt.ne.jp/~akindo/>

■デザイン
株式会社アワード

AWA awa onna akindo juku
おんなあきんど塾

あきんど
おんな
あきんど

AWA ONNA AKINDO JUKU

2003 第10号

【特集】新たな出発・キャストたちの「経営の本音と将来展望」／誌上くるま座サロン「35歳からの働き方」／平成14年度の事業報告と平成15年度の行動計画／経済と文化の融合・美鳥悦子さん

“民間と行政の協働”スタイルさらにパワーアップ!!

AWAおんなあきんど塾の活動の原点は『平成7年8月に10人でスタートしたときの思い=知恵と行動で、徳島の経済活性化を図ること』です。

そして、その思いは“徳島市(行政)との協働”というかたちで、花開きました。

花はまだまだ、いろいろな色を咲かせなくては…そんな使命にかられ、結成から7年を経た今年度、新しい女性経営者7人が加わり、さらに市女子職員3人も加わることで、民間と行政が同

じ土俵で議論・行動するという新しい協働スタイルで再スタートしました。

同時に、メンバーたちはお互いにフラットな関係を保つという基本姿勢を大切にする意味で、一人ひとりを“キャスト”と呼ぶことにしました。

そのキャストたちが自己紹介も兼ねて『経営の本音と将来展望』を語ります。新生・AWAおんなあきんど塾の考え方・目指す方向・意気込みを感じ取っていただけたと思います。

生活起点の発想を社会に提案

1986年、子育て本業中(当時息子は3才)に起業、世に言う資力、資質、資格なるものは一切持ち合わせず、見当たるものといえば、女性、母親、英語への関心という内なる素材。

これらを知恵と工夫で編み合わせ、保育サービスのステラをはじめた。

身の丈を越えず心に正直に経営と取り組んできた成果といえる15周年にたどりついた頃には、“経済社会に生活価値を認識せしめる”つまり、“生活中心主義の社会創りに貢献する”という、明確な目標と出会い、その実現のために徳島か

ら関西、そして関東へとステージを広げるための戦略も企てる事ができるようになった。

暮らし産業と効率主義は不似合いだ。利益追求型でなく理念追求型経営が私にはぴったりくる。Different is exciting! 経済至上主義のつくる画一的な価値観にwinkしつつ20世紀の忘れ物である生活起点の発想という新しい価値基準を社会に提案できる会社でありたい。

弊社のバランスシートにはやりがいという利益項目があります!と誇りをもってそう叫びたい。



植田貴世子

株式会社ステラ●代表取締役

1986年設立。
保育サービス、英会話スクール、ほかに人材育成・派遣のクラッシュ・インクを経営。
〒770-0814 徳島市南常三島町3丁目40-8
TEL088-623-6260 FAX088-623-6258

得意なこと、たのしいなこと 思うことを仕事にかえる

起業を思い立ったのは、なんと19才のとき。それから、大学に通いながら、又デザインの専門学校に通いながら、フツフツとその時を待っていました。

絵を描くのが大好きな私は、これをビジネスにかえようと試みたのです。

当時はめずらしかった「商業デザイン」の仕事で会社を起こそうと考えたのです。

起業してからは、一生懸命頑張っていくうち、応援して下さる方々にも沢山の

ぐり会えて、主人と二人きりで始めた会社は、今や11人が働く職場となりました。

現在、世の中の景気がどうのとか、楽しくない話題も多いのですが、幸い社員一同、夢中で頑張れるのも、私をはじめとして、全員が「たのしいな」と思うことを仕事としているからかも知れません。

今日も、明日へのステップアップを考えて、「お客様も楽しくなる」ビジネスの展開を皆で考えている最中です。



河野 世津子

株式会社ワーク・サイン●専務取締役
1972年創業。
サイン&ディスプレイ。
〒770-0005 徳島市南矢三町3丁目9-22
TEL088-631-4844 FAX088-631-3667



角元 愛

角元産業株式会社●企画開発室長

1940年設立。
鏡台・家具の企画、製造販売。
家具再生サービス。
〒779-3117 徳島市国府町日開49-1
TEL088-642-1166 FAX088-642-5634

新しい価値観で事業展開を目指す

木において、塗料において、ものづくりをする父の背中、家具に愛情を持って接する母の姿に囲まれて、私は育ちました。ものづくりへの強い思いから、引き寄せられるように実家の鏡台メーカーへ入社しました。

この仕事に就いて思った事は、私は家具が好きだということです。創業六十一年の老舗メーカーである当社へ「30年使ってきた鏡台だけど、もう一度あの頃の輝きを取り戻したい…」と依頼される方が増えてきました。懐かしそうに帰って

きた家具を再生する職人さんの横顔、見違えるようにキレイに蘇った家具を見た時、大きな感動を覚えたのです。

そして、家具再生を通して豊かなライフスタイルを提案するクリーンアップサービスが誕生しました。私が感じた感動や家具への愛情を多くの人と共有するため、異業種とも提携し全国展開していきます。家具再生に留まらず、新しい価値観を生み出せる家具開発、サービス展開を目指しています。



坂田 千代子

株式会社あわわ

株式会社アーサ●常務取締役

1984年設立。出版・広告。
〒770-8535 徳島市南末広町2-95
TEL088-654-1111 FAX088-655-8212

徳島での生活を楽しんで 結果としていい仕事をする

「Enjoy Business, Enjoy Life—仕事も生活も共に楽しむ」という企業理念に突き動かされて、21年も前からこの仕事をしている。タウン情報誌の発行がメインの仕事。徳島好きの人が集まって徳島の良いいところ取材編集して読者に伝えてきた。そして自らも徳島での生活を楽しむと結果としていい仕事ができるというわけだ。

なんだか楽しんでばかりじゃないかと

言われると、楽しむためには売上も必要だし企業として人・モノ・金を潤滑に動かしていけないといけない。これが結構シビアで大変である。

昨年は40代50代向けのタウン情報誌を創刊して10代から60代までの年代に向けて情報発信ができるようになった。

今後はデジタル事業や全国のタウン誌ネットワークでの共同事業など将来の可能性も広がる。

父の残した債務が私にチャンス

先日、仕事の三本柱は、「心、技、体、」心を整え、技術を磨いて、体を鍛える。なんて誰かの受け売りで朝礼で話したとたん入院した私は、従業員の方々と顔を合わせられなくなってしまいました。

今我社は、バブル時代の債務を抱え、とても厳しい状況にあります。原因は身のたけを知らない思い上がりだったのでしょうか？（社会も含めて…）この債務は父が残したもので私には大きな負担でもあり、大きなチャンスでもあります。私個人には、

一銭も貸してはくれないですね。この大きな私の課題をどの様にすれば楽しんでいられるか？それが私の大きな大きな努力目標です。

幸せになりたい。私もそう願っています。夫と、子供と、社会と。パートナーシップを築いて…。私の最終価値（幸せって私にとってどんなこと？）を探しながら、鼻歌歌ってスキップしながら通ってゆけたらなあ。と夢見ています。でも、まずは従業員の方々の信頼回復から始めなくてはね。



坂出 多美子

有限会社徳島滑水祥雲閣●役員

2000年創業。
郷土料理。
〒770-8053 徳島市沖浜東1丁目54
TEL088-626-0080 FAX088-626-0056



高岡 慶子

有限会社ケイ・トップス●代表取締役

1997年創業。業務ソフト開発、Webコンテンツの企画・制作、パソコン講習など。
〒770-0847 徳島市幸町3丁目101
幸町アネックス2F
TEL088-626-7331 FAX088-626-7338

会社の力は「人」

会社を設立して3年が過ぎました。これからの展望を考えると、会社の力として一番大切なものは「人」だと実感しています。

技術的なクオリティの高さはもちろん、仕事に取り組む過程でいかに良い雰囲気を創り出すことができるかによって、ひとつの仕事から生まれる成果は予想外に大きな実を結ぶと信じていますし、そこから会社の進むべき方向性を正しく見極めることもできるのではないかと考えています。

ケイ・トップスにこれまでかかわってくださった多くの方への感謝の気持ちを忘れず、お客様やスタッフとの良い関係の中から、新鮮な刺激を受け続け、技術者としても経営者としても自分を磨いていきたいですね。

どんなに厳しい状況でも、その中に楽しさを見つけることができたときに次のエネルギーが湧いてくる手ごたえをスタッフ全員で感じながら仕事をしていきたいと願っています。

「自信」を持って商いにチャレンジ

バブル崩壊後、取るに足らないような私の店でも卸業者の業績不振など従来のマニュアルでは対応しきれない状態が波のように押し寄せてきました。

そんな時、ふと思ったのです。商いととは何か、経営とは何か。私の解答は実にシンプルでした。お客様や従業員と真摯に向き合うこと。お客様が何を求め、どのように考えられているのか。従業員が日々何を考え仕事をしているのかと。そして自分は両者の充足感に見合う「自信」を持って行動しているのかと。

バブル崩壊後に失ったのはシステムとビジネスモデルではなかったではないでしょうか。人の心こそは変わらぬ永遠のものではないでしょうか。

こんな時代だからこそ「信じる心」を自身のモチベーションにしてきた。経験を活かし常に「自信」を持って商いに経営にチャレンジしなければと思っています。

その中で今具体的に何を行うことは何か、5年後、10年後の現実的な目標は何かを定めることが大切だとも考えています。



高木 博代

モンド・ジャコモ有限会社●代表取締役

1998年設立。
セレクトショップ(婦人服、靴、バッグ他販売)。
〒770-0911 徳島市東船場町2-42
TEL/FAX 088-626-1255

社内ベンチャーで新規展開

わが社は、花嫁、花婿、参列者の衣装のレンタル業としてスタートし、現在は、海外挙式、新婚旅行、式場紹介や挙式のプロデュースなどブライダルを核とした事業展開をしてきました。

しかし、最近のブライダル産業は逆風の中にあります。結婚年齢の人口減少、結婚しない人たちの増加、結婚をしても結婚式をしない人たちは、確実に増えています。そういった厳しい外部環境のなかで、今、私たちはブライダル中心の仕事から、人生におけるあらゆるアニバーサリーライフをサポートする会社へと、ギアチェンジをし

ようとしています。

ただ、新しいビジネスを作っていくのは、私たち経営者だけでなく、実務レベルの若いスタッフたちの力が必要です。顧客の好みや嗜好は、スタッフたちのほうがよくわかっている、そのなかでいわば社内ベンチャーとして新しい商品の販売開発や、インターネットのページ作成などをどんどんやっていると、そんな企業にしていきたいと考えています。特にわが社の顧客の大半は女性です。スタッフも5分の4が女性のパワーを生かして楽しくて生き生きとした仕事を続けていきたいなど、思っています。



高畑 富士子

株式会社とさわ●専務取締役

1955年創業。衣装レンタル、ブライダル関連商品の販売、旅行業務、保険業務、パンケット、カフェ、雑貨グッズ販売、プロデュース業務、式場紹介。
〒770-0805 徳島市下助任町3丁目20-2
TEL088-622-0011 FAX088-623-8247



立川 真季

株式会社ココア堂●代表取締役

1991年創業。増販増客マーケティング及びプロセス設計・ツール作成、各種広告制作、事業計画書作成、店舗プランニング。
〒770-0847 徳島市川内町竹須賀107-3
TEL088-665-5476 FAX088-665-7130

今ある資源を生かし 新たな価値を生み出すために

仕事も経営も、眠れぬほどの不安と叫び出したいほどの達成感と、怒りや感動の繰り返しです。それほど高い志もなく起業した私は、今も山あり谷ありの激動のドラマの中にいます。ドラマは筋書き通りに進まない。主役がいきなり降板したり、セットが突然壊れたり。どんな局面でも幕は開けなきゃいけない、そして開けてきた。創業以来12年、おかげでタフになりました。

タフついでに先日、へんろ道の石積みに参加しました。あたりで集めた石はいびつ

だつたり、すぐ割れたり、性質も形もさまざままで揃い。けれど、石積みの人たちは、いびつな石を組み合わせ、うまく整え立派な道や階段に仕上げていく。そこには確かなマニュアルはなく、あるのは現場の知恵と経験。ふと、仕事も経営もそんなものかなと思いました。今ある資源をどう生かし、どう組み合わせながら新たな価値をつくるか。揺るがぬ軸足で、知恵と体力を振り絞りながら。

民間と行政の壁を越えて

以前から徳島の経済の活性化の一環として、異業種の女性経営者達がボランティアで集まり「女性起・企業家を育て、支援していく」という活動に、興味を持っていたのですが、それぞれが担当の違う課に属していましたが、遠巻きに応援することしかできませんでした。

しかし、今回 あきんど塾の方々から「市の女性職員も参加してほしい」という素晴らしいチャンスをいただき「是非いつ

しよに活動をしてみたい」という有志が集まりました。

これからの「徳島の経済の発展」に私達がどのように関わっていくことができるのか？多少の不安はありますが、民間と行政という壁を越えたフラットな関係を保ちながら、私達が個々に経験・勉強してきたことを活かすとともに、「あきんど塾」の方々から触発されて、新たな自分の一面を引き出せることができたらと思っています。

蔵本 芙美子

徳島市広報広聴課●課長補佐

〒770-8571 徳島市幸町2-5
TEL088-621-5091 FAX088-655-9990

吉田 真由美

徳島市農林水産課●主事

〒770-8571 徳島市幸町2-5
TEL088-621-5246 FAX088-621-5196

米津 江美

徳島市教育委員会総務課●主事

〒770-8571 徳島市幸町2-5
TEL088-621-5407 FAX088-624-2577

誌上くるま座サロン

「35歳からの働き方」

平成15年度活動へ向けてのプロローグ

平成15年3月4日午後7時、徳島市役所3階会議室に、3人の一般参加者とAWAおんなあきんど塾のキャストたちが集いテーマ「35歳からの働き方」について、熱い意見交換を行いました。

●AWAおんなあきんど塾キャスト参加者

植田貴世子・角元愛・河野世津子・蔵本芙美子・坂田千代子・高岡慶子・高木博代・立川真季・吉田真由美・米津江美

坂田 さて、AWAおんなあきんど塾の「くるま座サロン」、今日は誌上用ということなんですけれど、テーマは「35歳からの働き方」です。このサロンの目的は「おしゃべり広場に集まって、知恵を出し合い、人やまちを活性化しよう。徳島を元気にしよう」ということです。ざっくばらんな感じでやっていきたいので、気軽に発言していただいて相談したりアドバイスしたりお願いします。

今日集まっていた3人は、三人三様の働き方をされています。ずっと働き続けている方、それから、働きたいと思っているけれどまだ働けていない方、それから、起業して自分で事業をされている、という3人の方に来ていただきました。

まず3人のプロフィール、働き方の現状みたいなものを、1人ずつ何えればと思いますので石井さんからお願ひできますか。

石井 18歳までは徳島でいたんですけど、その後大学等ずっと徳島を離れていました。3年前にこちらに帰ってきたんですが、仕事としては、大学を出て、大学の研究室に助手として勤めていました。その後、結婚しまして、ちょっと外国で住んだ時期もありまして、東京、千葉と。その時はずっと専業主婦でございました。それで、子供が2人生まれました、絵の方が専門でしたものですから千葉でお絵かき教室を開きまして、50名ぐらいの子供たちを教えていました。

そして39歳の時に徳島へ帰ってきまして、縁があってステラさんに就

職することができまして、現在マネージメント関係の方の仕事をやらせていただいております。3年目です。尾形 私は18歳の時から毛皮屋さんで5年間勤めまして、その後結婚して主人の会社で事務を手伝っております、一時ステラさんの方でもお世話になっておりました。その後市内から藍住の方に引っ越して内職でカーテンを縫っていたときちょっときっかけがあったんですけど、36歳の時にネイルを勉強したくなりまして、神戸まで週に1回5時間6カ月間通いまして、カーテンを縫いながらネイルをしてたんですね。そのあと穴吹カレッジさんのネイルの講師のお話をいただいて、そうこうしている間に1人でまかなえなくなって、去年の10月にネイルのお店を出してスタッフに手伝ってもらいながら今頑張っております。

水谷 私は学校を卒業してからタウン誌あわわに勤めておりました。22歳まで働いていたんですけど、きっかけがあって辞めまして、それからオーストラリアに2年間留学のような形で行って、そこから縁があって、インドネシアのバリ島へ行って4年ほどホテルで働いてました。その後、結婚をして日本に戻ってきて、それからはずっと専業主婦なんですけれども。またちょっと仕事をしたいなあと。上の子が2歳になった頃にあわわさんから自宅でできる仕事をいただいていたんですけども、下の子が生まれて、そちらもお休みさせていただいて。最近また下の子が2歳になったので、何かの形で



●参加者プロフィール【写真左より】

石井一江さん(43) 株式会社ステラ勤務
尾形香代さん(41) ネイルサロン自営
水谷千賀さん(36) 主婦

仕事ができればと思ってるんですけども。上の子と下の子とそれぞれをまた預ける施設が必要になるってことで、まだうまくいかないという状態です。

坂田 ありがとうございます。3人の方に共通してるのは、20歳ぐらいで学校を出てから、みなさんキャリアを持って働かれています。その後、結婚をして子育てをして、でもやっぱり働くということにずっと関わっているということだと思っております。

今回のテーマの35歳というのは、わりと女性にとって人生の節目みたいなところがあって、キャリアを生かして再就職したいけれども子供が小さいのでなかなか働けないとか、求人票を見ても年齢=35歳までと書いてある会社が多いとかですね。そういう仕事に対する意欲と困惑が入り混じった時期だと思っております。

今日は女性経営者の皆さんが集まっていますから、いろんなアドバイスができると思いますので、女性として働いてこれた、悩みとか、解決したいことがありましたら聞いてもらえればと思います。石井さんいかがですか。

仕事観をしっかりと持っている環境が変化しても やりたい仕事ができている

石井 私は35歳の時は、まだ専業主婦でした。下の子が4つぐらいでしたので、主人から「何で働かないのか」ということを、よく専業主婦時

代に言われたんです。「君は絶対に働くタイプだし、家で子供だけを見ていていいのか」というふうな質問をよくされたことがあって、私はその時は、実家も遠かったですし、周りに頼れる相手もいなかったで、「今は私はちゃんと子育てをします」ということで。

確かに35歳っていうとなかなか就職等も難しいですし、自分の専門の美術関係を生かそうとしたら、やはりなかなか専門職ってないもんですから、10年以上のブランクもあって再就職っていうと難しかったわけですね。それで結局、自分の中で確かに働きたいという希望もあったし「自分の持っているもので何かできるものがあつたら」ということで、まず手始めにお絵かき教室をやったんですね、その時。

専業主婦時代はそれはそれなりに楽しかったんですけども、「今の生活には満足してるけど何か足りないなあ」という思いはずっとありました。周りの専業主婦の方も、PTA活動とかボランティアとかされて、いいかなとは思ったんですけど、ジレンマっていうのは、すごくありました。「何かをしなければいけない」と。「それは何だろう」という思いがずっと自分の中にあつて、それでにお絵かき教室をやって「君は一体何がしたいのか」とって主人に言われた時に、私は絵の方か、あとは大学で勤めていた時にマネージメント関係がすごく面白いと思ったので、それをやりたいっていうことを、何とはなしに自分では言っていたんですね。たまたまステラで働くようになって、部署がマネージメントということで、偶然なんですけども、自分がやりたかったことがやれるという風な状態ですね。

植田 それはもう「出会い」でしかないんですけど。私は起業して17年目なんですけど、女性を取り巻く社会情勢といいますか、社会環境というのは、すごい勢いで変わった17年だったんですよ。だから、女性の意識とか女性の仕事観みたいなものが、自分自身で明確に持ってらっしゃる方は、それなりにいい方向に進んでらっしゃるし、その中で悶々と自分がまだ何をしたいのか、どう生きたいのかっていうのを明確に持ってらっしゃらない方は、いまだに

迷ってらっしゃると。中には、持っているだけけれども、うまくのっかれないっていう、出会いがないっていう方もいらっしゃるかもしれないんですけど。

河野 美術とマネージメントと両方やっていた中で、美術の方で起業っていうか、生業としてやっていくようなことは考えられないんでしょうか?これから、美術を何かに生かしていくようなヒントはないのかしら?もちろん、今のマネージメントのお仕事も楽しいでしょうし。私はぶきっちょだから1本しかなかったけど、石井さんは2本あるから2本をうまく生かす方法ってないのかしらねえ…。

立川 皆さん、結婚なさったりとか、お子さん生まれたりとかして、今やるべきことをキチンとやりながら、仕事に復帰できる時になって復帰して、また子どもができたら子育てにっていう、無理をしないでずっとやっていくっていうことが、すごく潔いっていうか、すごく大事なことだと思っております。

で、最近どこかの航空会社が24時間勤務じゃない人を75人切ったという、あれはすごいと思うんですけど、ああいうふうには、企業も苦しいので条件によって切ってくると思うんです。例えば、自分が子育てをしないかやいけないっていうのと、仕事をこのまま続けたいっていう時に、やっぱり悩んで選択しますよね。その時に、選択した自分のその時の意志っていうのがすごく大事だと思うんですね。そこで仕事に2年3年ブランクがあいても、子どもの成長が見れ

るっていうのが大切だということ…。

やっぱり女性の場合は、子育てのブランクは宿命で、だから強くなっていくんじゃないかなと思うんです。子育てのブランクに対しての、社会的評価をされてないっていう現実があると思うんですね。でも、石井さんのように、ずっと仕事を持ちたいとか、ずっとこの道っていう軸足がずれてない場合は、そっちに向かっていく力があるし、それが周りを動かしていくんじゃないかなって思いますね。

皆さん拝見していると、子育てやりながら元に戻ってきてる。で、また子育て中にやりたいことが変わって、子育ての中から自分がやりたいって思うものを見つけることもできるので、それは自分の人生の中で見極めて選択して進んでいくってことしかないかなって思ったりします。

自分の好きなものを 仕事にするのが一番

尾形 悩みではないんですけど、私も子どもがいるじゃないですか。私がなぜ家でカーテンの内職をしたかと言ったら、帰ってきた時にやっぱり「おかえり」と言ってくれたんですよ。でも、小学校6年生、3年生って手が離れるようになったら、何か自分のしたいことって…。私のモットーは「楽しくなければ仕事じゃない」なので、やっぱり楽しく仕事をしたかったんですよ。って言ったら何かっていうと、自分の好きなものを仕事にするのが一番じゃないですか。

で、昔からネイルするの好きだっ



たし。実は私、手のコンプレックスがあったんですよ、ものすごく。小学校の時に「お前の手、男みたいな」って隣の席の人に言われて、ガーンとなりました。それがショックだったんですけど、付け爪をしたりキレイにしてたりすると、ある時「きれいな手やね」って。しょうもないでしょう？でも、コンプレックスだったところがほめられたっていうのに、私はものすごいウワツと思って、で次の月から神戸に行ったんですよ。ただひたすら、週に1回。だから私、自分の手をきれいにしたかっただけなんですけどね。それが元なので、ネイリストになろうっていうのは、実はなかったんですけど、でもだんだんお仕事の方が忙しくなって、「カーテンなんか縫ってられへんわ」と思って。

でもやっぱり、子どものことって、私の中では一番大きいんですよね。今も中3の受験生ですけど、塾の送り迎えに、7時20分からの塾なので、その前にご飯食べさせなあかんし、でも仕事7時までやし…。悩みって言ったら子どものことかなあ。

河野 私も子育てしたよ、2人も。赤ちゃんできて、笑われるけど、ダンボール箱に入れて、そこに置いて仕事するとか、なんかもう過酷な状況で大きくして、ミルクあげながら、自分で見ながら。1人背負って1人手を引いて仕事するとか、ずっとそんな感じやったかな。

今はもう大きくなって20代だけど、子ども2人、会うと男の子でもウワツて抱擁しあって(笑)。人前でもそんなんでできるっていうのは、やっぱり小さい時からふれあってたというか。他にも方法あったんですけど、やっぱり側におりたいし、ミルクあげながら、電話もとりながら、仕事しながら、営業も行きながらっていう感じ。だけど立派な子に育ちましたよね。やっぱりお母さんがいいんでしょうねえ(笑)。

高木 私は子ども1人なんですけど、私の場合は25歳ぐらいからずっとモンド・ジャコモというお店をやっている、その間に結婚して子ども産んだので、それこそ河野さんと一緒に、お店のソファでお乳をあげて、乳母車で連れてきてってやってたので、子どもが手を離れるまで忙しくて、なんか本当にこう息を荒く

しながらっていう感じなんです。でも、仕事で疲れてても、子どもを見たら癒されるし、子育てでつらかったら仕事に逃げられるし。子育て最中っていうのは、両方でストレスが発散できるかな、と。逃げる道が、子どもだったり仕事だったりできるので、幸せかな。

河野 ストレスを仕事で発散するっていうのは、仕事しよる人しか言えん言葉やねえ。仕事したらストレスがたまるとかって言うけど、そうじゃないもんね、私たち。

植田 でも、企業の中で仕事してる人と、また条件が違うと思うよ。自分の意志とは違うところで、まったく予期せぬプレッシャーがあったりとかするし。だから、私はそういう意味では、自分で事業やってる環境下ですごい幸せだなと思うのは、自分で自分の時間をコントロールできることかな。

子供が小さいときは 責任ある仕事を受けると 会社に迷惑かけそうで

水谷 私は最近、下の子が2歳になって、少し手が離れてきたかなっていうぐらいなので、またあわわさんでお仕事させていただけたらと思うんですけど、その時に、ちょうど「今人を探してる仕事があるので、お願いしたい」というふうに言っていたんですけど、それは基本的には毎日会社に行って、毎日コンスタントに仕事をこなしているって成り立つっていうような仕事だったんですけどね。最初は「限られた時

間でも、集中してやれば生産性は高くできるんじゃないか」と思ったので、「お受けできるなあ」と思ってお話聞いてたんですけど、思い返すと、上の子が2歳の時っていうのは、保育所で毎月毎月1週間以上は病気で休んだりっていうことがあったことを思うと「私にこんなに責任のある仕事を任せていただいても迷惑をかけるんじゃないか」と思ったら、「私やっぱり引き受けられないです」という話になってね。「私ちょっと認識が甘かった」と自分でも思ったんですけども。そういった時に、おじいちゃん、おばあちゃんが近くにいて預けられるというのもないし、となると責任のある仕事をさせていただくっていうのが、すごく難しいっていうのは、やっぱり問題だなと思ってるんですけども。

坂田 あわわの会社としても、昔働いてくれていて、すごく能力があるっていうのが分かっているから「できる!」、「ほしい!」とっていて、で、水谷さんも「仕事がしたい」と思っていて、でもよく考えたらできないという結論になったんですけどね。

水谷 たとえば、子どもが水ぼうそうにかかりましたって1週間お休みしてっていうんだしたら、まだ周りの人も協力してくれるかなと思うんですけど、それが2回3回ってなったら「どうしてあなたこの仕事引き受けたの?」ってなるんじゃないかなって思うんですけど。だったら「こんな責任のある仕事をあなた今やるべき?」って思ったんです。それだけ自分が仕事に対して責任を持てる



自信があってじゃないとやれないなああって。

植田 でもね、どれだけその仕事をやりたいか、思いの強さによって、全然行動って変わってくると思うんですよ。例えば、今世の中には保育サービスっていうのがあるので、例えば水ぼうそうなんかだと法定伝染病ですから、お医者様がOKって言うまで集団保育はできませんよね。その時に、私たち、ベビーシッターサービスっていうのがあるって、それを活用することによって、お母さまはピークの時だけ側について、あとはお仕事に行けるっていう環境をつくれるわけですよ。今、そういう送迎も家事サービスっていうのがあるって、送迎サービスができるんですよ。だから、「やりたい!」って思いが強ければ、できない社会環境では今はないということも1つの勇気の材料にしていきたいです。

でも、そうじゃなくて、やっぱり今の時点では、ご自身で子どものケアをしたいっていう思いの方が強いから、仕事を選ばないんだと思う。結構そういう女性多いと思うんですよ。みんな「できない、できない」っておっしゃるんですけど、やろうと思えばできるんですね。

水谷 主人とも仕事の話をした時に、「子どもが病気になった時に、お前はそれでも仕事に行きたいと思うのか。それともその時は子どもについていてやりたいと思うのか」と言われて、「私にはそこまでして、子どもを置いて、仕事に出かける覚悟はまだできてない」というふうになりましたね。

植田 だから、やっぱりまだ仕事に対して機が熟してないっていうか、そういうことだと思うんですよ。だから何歳にならなきゃできないってことでもないというふう思うんですけどね。ただ、まあ企業の中で生かされる、生かされないっていうのに関しては、結構それは壁はあると思うんですけど、仕事に踏み切る踏み切らないっていうのは、今はかなり環境整備ができてきてるんじゃないかなっていうのが実感ですね。

徳島って都会に比べたら 子供を預けて働ける環境が あるのかも

高岡 たまたま明日面接をする人が



5年ブランクがあって、で、働きたいっていうことで、今日電話があったんです。37歳の人で、子どもが大きくなったので働きたい。5年ブランクがあるんだけど、でも、それまで10年ぐらいやってきて、大丈夫だと思う。私も大丈夫だと思うので、明日面接をして、多分明日から働いてもらおうと思ってるんですけど。子どもが中学生と小学4年生かな。

私が大阪の会社で働いていた時に、産休とって復帰する人がいない会社だったんですね。なんでかっていうと、大阪は通勤範囲が広いので、家の近所の保育所に預けてもお迎えに行けないという。徳島にUターンで帰ってきた時に、「産休で休んでた人が明日から来るよ」と。「あ、こんなことができるんだ、徳島って」って思いましたね。「徳島って子どもを預けて働けるっていう環境が都会に比べたらあるな。よかった」と思ったけど、私は子どもがいないんですけど(笑)。すごくいい環境だと思います。だから、ぜひ、そういうやる気のある人で仕事のできる人に働いてほしい。

ちょっと前にアルバイトの人で、子どもを4時に迎えにいかなければいけないっていう人がいたんですけど、やっぱり水ぼうそうありました。ちょうどイベントの前の前の日に水ぼうそうになって。でも「今すごく忙しい時だから水ぼうそうになったらダメ」もないですよ。急に「ケガしたから迎えに来て下さい」だとか「服が濡れたから迎えに来て下さい」とか。でやっぱり、本人がだいぶストレスがたまってきた「もう迷惑かけるんで辞めます」と。私は自分が子どもがいたらどうなるんだろうっていうのが、すごく興味があったので、見ていたかったんですけどね。

角元 本人が周り以上に「申し訳ない」って思うのが、プレッシャーに

なるというのがあるのかもしれないね。

うちの会社では小さなお子さんがいる人はいないですね。皆さん、子どもがもう大きくなった方が、子どもさんがいらっしやらない方かな。私も子どもがいないんで、そういうものなのかと驚いています。勉強になるというか。自分もやっぱり子どもができた時どうするかとか思ったりしますので、そういう現実があるんだなって勉強になるっていうか、自分の将来設計をするにあたって参考になりました。

キャリアを持った女性が 再び社会に出ることによって まちも経済も活性化される

坂田 そろそろまとめなんですけれど、やはり3人のお話を聞いていると、3人ともキャリアを積み重ねてきていて、自分がしたいもの、できるものっていうのがあるんですよ。石井さんと尾形さんは時間が来たからそれを生かして、水谷さんは今はちょっと躊躇して、でもやっぱり仕事はしたいなあと思っていると思うんですね。

会社の経営者としては、学校出たての挨拶の仕方教ええないといけないような、そんな新人よりも、本当はこんな不況で大変な状態だからこそ、即戦力がどの会社も欲しいと思うんですね。35歳ぐらいの女性はそれこそその即戦力で、でも子どものこともあってそれでちょっと迷っているというのが多くの現状かなと思うんですけど。

このくるま座サロン、あきんど塾の目的っていうのは、徳島の経済の活性化という大きな目標があるんですけど、そこに行き着くには、やっぱり女性の35歳からの働き方がポイントですね。キャリアを持った女性がずっと家庭にいるのではなく、キャリアを生かしてワーツと社会へ出てきてもらえたら。そしたら服やら食事やらとお金も使うしね。お金ももうけるし、まちも活性化できて、キャリアも生かされて、元気なまちになるんじゃないかと思うんですけど、まだまだ課題はたくさんあるというのが現状かな、という感じでしょうか。

今日は本当にいい出会いをありがとうございました。

時代の風を感じながら動く 新生・AWAおんなあきんど塾

みんなの知恵が行き交う「場」づくりで、
徳島の人・まちを元気に！

女性をキーワードにさまざまな活動を続けてきた「AWAおんなあきんど塾」。平成14年度は、月例会を通じて徳島の活性化についてのエネルギーな会議を重ねてきました。本コーナーでは、本年度の事業報告と平成15年度の行動計画についてご紹介します。

■さまざまな意見が飛び交い、試行錯誤しながら重ねられた会議

平成14年度は新たなメンバーを加えてスタートしたAWAおんなあきんど塾。設立メンバーと新メンバーには多少の温度差はあるものの、徳島の経済活性化を願う気持ちは共通。月例会では時間いっぱい熱のこもった議論が交わされました。

中でも本年度の特徴としては、現在の社会環境も考慮し、「起業」「女性」という視点から「現業の活性化」についての議論を深めていったこと

です。まずは既存の企業や従業員、働く女性が抱える課題を抽出していくことから始めました。

[メンバーが抽出した課題]

●私たちメンバーを含め、事業を取り巻く環境は厳しさを増す時代。新規開業のみに着眼するのではなく、現業の課題や不振状況を打破するアイデアや知恵が必要。

●女性を取り巻く起業環境は徐々に改善されつつある。現況の課題は就労環境、仕事と家庭・子育ての両立。加えて30代の再就職が深刻。

●事業主、起業家、従業員などリアルな現場の声を聞きだし、問題解決を。

●こういう時代だからこそ攻撃的に！塾内外から知恵を持ち寄り、実践成果を共有することで、未知の事業を商品化するお手伝いができないか。などなど、メンバーが本音をぶつけた結果…ともかく「徳島の人・まちを元気にしたい」という活動目標にたどり着きました。

■もっと語り合える「場」が欲しい



メンバー自身の事業の悩みや課題をさらけ出し、互いに語り合う中で見えてきたのは「一緒に語り合える場が必要」だということ。「じゃ、あきんど塾がそんな場づくりをしましょう」と全員が合意。こうして「AWAおんなあきんど塾くるま座サロン」の開催が実現することになりました。

●AWAおんなあきんど塾

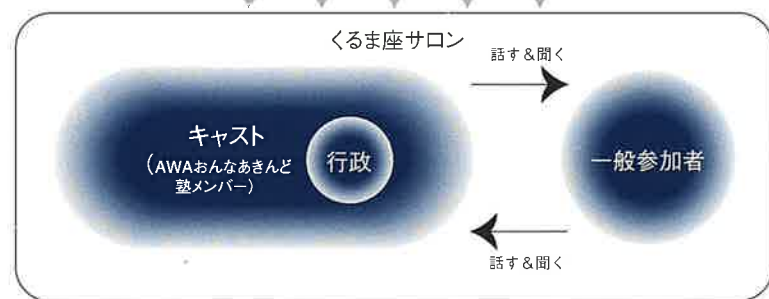
「くるま座サロン」とは・・・私たち行政も含めたメンバーと一般参加者がざっくばらんに話し合い、個々がフラットな立場で意見やアイデアを出し合い、知恵をシェア（おすそわけ）し共有していくフリーな座談会です。

■平成14年度まとめ
AWAおんなあきんど塾
くるま座サロン開催に向けて

開催意図：新生・あきんど塾では、発足より続く「女性起業家が育つまち・企業経営者が成長するまち・経済と文化が融合するまち」づくりに軸足を置きながら、まちや企業を支える「人」、そして「知恵」が有機的に交流する「場」づくりを実践します。サロンでは毎回テーマを決めて参加者を募集。メンバーと参加者のフリートークの中から、それぞれの課題を自己解決していくことを目

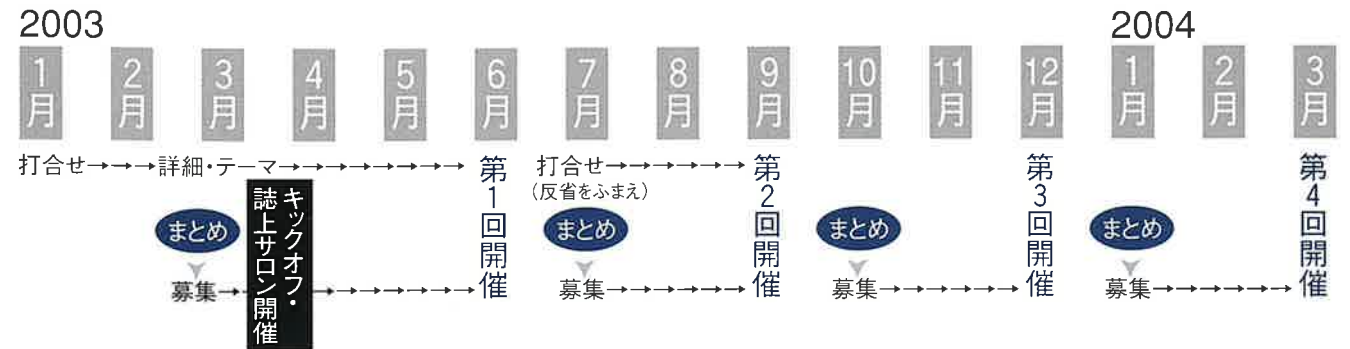
【くるま座サロンのイメージ】

一緒に徳島のこと、未来のこと、家庭のこと、仕事のこと、腹をわって話しませんか…



サロンのルール・・・
フラットな立場
シェア知恵
リンクネットワーク

【事業スケジュール】



標とします。プロローグとして平成14年度に誌上サロンを実施。平成15年度内に4回開催予定。

目標へのフロー：

個が集まる→さまざまな発想が行き交う→知恵のやりとりができる→問題が抽出できる→解決のアイデアが生まれる→個々が元気になる

★ひいては
企業や徳島のまち全体が活気づく！

サロンのテーマ設定（予定）：

●第一回開催テーマ
「管理職の悩み相談室」

●第二回開催テーマ
「現業の増販増容計画」
●第三回開催テーマ
「徳島オリジナル商品開発考」
●第四回開催テーマ
「起業の勇氣」

毎回一般参加者を募り、私たちメンバーとともに知恵を絞り合い、それぞれが何らかのヒントを見つけていただく場にしていきます！

■平成15年度から
ドキドキ、ワクワクのスタート！

どんな話が飛び出し、どんなセッ

ションになるのか、果たして答えは見つかるのか・・・未知数ですが、私たちと一緒に徳島のこと、仕事のこと、夢やアイデアをどんどんおしゃべりしてみませんか。

みんなが元気で、楽しく働ける環境をつくるためにも、ぜひいろんな知恵をサロンで出し合いましょう。私たちAWAおんなあきんど塾メンバーもとても楽しみにしています。

●お問い合わせは・・・
AWAおんなあきんど塾事務局
徳島市商工労働課
tel.088-621-5225

経済と文化の融合

美鳥 悦子さん

今号の本シリーズに登場していただくのは、美鳥悦子さん＝徳島市中吉野町1丁目＝です。

美鳥さんは日常生活から湧き出る感情のありのままをキャンパスに映し出す、知る人ぞ知る作家『うさぎちゃん』の正体なのです。

— 強さや華やかさのなかに、ふっと安らぎを感じる不思議な作品ですね。

美鳥 とにかくシンプルで、リラックスできる感覚、懐かしい感情を大切にしています。だから、素材はいつも自然や日常的に身近にあるものなんです。

— いつ頃から、創作活動を？

美鳥 意識しないまま、いつの間にか始めていたという感じ。プレッシ



ヤーに弱いわたしには、その自然発生的感覚が良かったのだと思います。

最近、母親になるという大きな環境変化もあったけれど、これからは、自然志向の人生観や芸術観は変わらないかなあ。

interview

— デニム生地のキャンパスにペンキなんて、珍しい技法ですね。
美鳥 ある時、大きなデニムの生地に思いっきりペンキを落としてみたら、色がシンプルで迷いの余地がなかったんですね。心のおもむくままに描きたいというわたしの本能を満たしてくれたんです。筆を置いたら何かの形になってる、それが、わたしの作品です。

雨が降りしきる冬の公園で話し終わったあと、彼女が一瞬、淡緑色に濡れた木々に溶け込んでいったように感じました。

●インタビュアー
AWAおんなあきんど塾
機関誌編集委員長 河野 世津子

●AWAおんなあきんど塾／稲実房子、植田貴世子、岡部恭子、角元昭子、角元愛、金岡真由美、河野世津子、蔵本英美子、坂田千代子、坂出多美子、佐藤公子、高岡慶子、高木博代、高畑富士子、立川真季、中山律子、新居洋子、吉田真由美、米川慶子、米津江美、和田玲子